広島県東広島市 ー大学等との連携協定を活かしてー

市の概況（令和４年１０月末時点）	
人口	190,329人
高齢化率	24.6%
後期被保険者数	24,169人
日常生活圏域数	10圏域

実施体制

医師会、歯科医師会、薬剤師会
受診勧奨、
通いの場の紹介 等

東広島市医療保健課
黒瀬支所福祉保健課
豊栄支所地域振興課
河内支所地域振興課
安芸津支所福祉保健課
企画調整担当
保健事業、介護予防、
通いの場担当

その他：地域包括ケア推進課（地域包括支援センター）、地域共生推進課、国保年金課、介護保険課

地域の団体
広島国際大学、生協ひろしま
東広島市社会福祉協議会 等

既存の取組・開始の経緯

- 令和元年度、健康寿命の延伸を目的に東広島市と広島国際大学とで健康なまちづくりに関する連携協定を締結。「つながり（絆・笑い）」「睡眠」「運動」をテーマに、大学の知見を活かした健康講座をモデル的に実施した。更に広島国際大学と、地域の健康づくりや介護予防などを担う多様な団体と連携し、令和２年度より「東広島市健幸ステーション連絡協議会」を設立。その後、広島国際大学と東広島市でフレイル対策プロジェクトを展開している。
- 一体的実施以前よりフレイル予防の重要性に着目し、市としても、通いの場等でのフレイルチェック・運動機能測定や「運動」「栄養」「口腔機能向上」及び「睡眠」をテーマとした講座等を行っていた。
- これらの既存の事業を活用し、医療保健課が主担当課となり令和３年度から一体的実施の取組を開始した。

企画調整・関係機関との連携

- **庁内連携**
  月に１回「コアネットワーク会議」を開催。地域共生社会を目指す担当課で集い、担当圏域の動きや事例の共有、検討会を実施。
- **東広島市健幸ステーション連絡協議会**
  広島国際大学、東広島市社会福祉協議会黒瀬支所、行政等で構成。今後のフレイル対策の方針や企画立案の検討、健康で幸せに暮らせるまちづくりに向けた情報交換を行う。
- **医療関係団体等との連携**
  令和３年度 事業実施時に医師会事務局へ相談。後期高齢者の質問票の実施等を依頼。口腔機能フレイル予防対策モデル事業については歯科医師会の公衆衛生部担当の歯科医師に個別に相談。薬剤師会には通いの場の周知を依頼。

ハイリスクアプローチ

- **健康状態不明者**
  KDBから、健診未受診・医療機関未受診・介護認定を受けていない人を抽出し後期高齢者質問票等を送付。返送があった人も含めて全員に電話や訪問を行い、必要に応じて関係機関やサービスへのつなぎを実施。
- **口腔機能低下予防**
  後期高齢者の基本健診の結果、口腔機能低下のみられた人（口腔機能の２項目該当者）、体重減少２ｋｇ以上、歯科受診無し、要介護要支援認定なしの人を対象に、受診勧奨や口腔機能向上のための支援を実施。
- **独自事業（プレフレイル・フレイル状態）**
  後期高齢者の質問票にて週1回の外出なし、1年間の転倒歴有りの人等について、基本チェックリストを送付し、介護予防・日常生活支援総合事業につないだり、必要に応じて訪問、電話等で保健指導等を実施。
- **独自事業（通いの場中断者）**
  通いの場中断者について、要介護認定状況の確認や、通いの場代表者からの本人の状況や中断理由の確認を実施し、実態を把握。

ポピュレーションアプローチ

- **生協ひろしまと連携した、フレイル改善教室**
  プレフレイルの人に対して、状態の維持改善及び社会参加につなげる教室を開催。
- **通いの場等を活用した、健康教育・健康相談**
  「運動」「栄養」「口腔」「睡眠」等をテーマとした各種講座を開催。また、広島国際大学と連携しフレイルサポーター養成講座を開催。
- **口腔機能フレイル予防対策モデル事業**
  咀嚼機能低下がみられる高齢者の割合が高い志和圏域サロン参加者を対象とし、口腔機能の測定と歯科衛生士による健康教育を実施。
- **フレイル予防教室**
  各圏域で、栄養の講話と運動の実技、骨密度測定器や運動機能測定装置ザリッツを用いた測定を実施。
- **フレイル測定会**
  市役所の他、ショッピングセンター、健康福祉まつり等のイベントでも実施。

広島県東広島市

事業結果と評価概要（令和３年度結果）

		対象者数	参加者数	評価指標	状況（評価結果）
ハイリスクアプローチ	健康状態不明者	617	535	①状態把握できた高齢者の数 ②必要な人をサービス等へつないだ人数	①531人の状況を把握（把握できなかった４人には継続支援） ②つなぎ（複数該当あり） 関係機関：46人 通いの場参加：３人　健診受診：17人 医療機関受診：19人　介護保険申請：9人
	口腔機能低下予防	152	7	指導前後の変化	初回訪問で終了：５人（すでに歯科受診中などのため） 継続支援実施：２人
	独自事業（プレフレイル・フレイル状態）	-	①50 ②159	①（プレ）フレイルの人への支援実施数 ②後期高齢者質問票から把握したフレイルの人への支援実施数	①郵送による情報提供　26人 訪問・電話等による個別支援　24人 ②訪問・電話による情報提供　159人
ポピュレーションアプローチ	通いの場等におけるフレイル予防の啓発、健康教育・健康相談	-	累計 5,247	通いの場等におけるフレイル予防の普及啓発回数	●通いの場支援　179箇所 ●フレイル改善教室　全８回　実18人　延107人
				健康課題やフレイルリスク（運動/栄養/口腔/社会参加）該当者の改善率	フレイル改善率：39.7%
				口腔機能フレイル予防対策モデル事業の実施状況	志和圏域通いの場・地域サロン・老人クラブ　７箇所　160人
				フレイル予防教室・フレイルサポーター養成講座等開催回数	フレイル予防教室　11回　95人 フレイルサポーター養成講座　30回　540人

【自由記載欄】（状況の補足）
・健康状態不明者では、ごみ屋敷や、世帯全体の複合的な問題がある人、高齢者虐待、認知症の世帯等が見つかり、関係機関へつなぐことができた。
・口腔機能低下予防の取組においては、上記のほか、健康状態不明者への後期高齢者質問票より、口腔機能の２項目該当者21人から優先度の高い５人へ訪問指導を実施した。３回以上継続支援を行った人は口腔に関する意識の向上がみられ、口腔機能（むせ、食べこぼし、口腔乾燥等）の改善がみられた。また、歯科受診へつながった人もおり行動変容につながった。

課題・今後の展望

- 健康状態不明者については、文書の返送や電話では状態の把握が不十分なため、今後は対象者全員への訪問を実施し、対象者と対面で状況確認を行う。
- 通いの場中断者へのアプローチについては、令和３年度は新型コロナウイルス感染拡大もあり、代表者へ連絡し中断理由の把握が主となっていた。今後は代表者へ確認後、必要に応じて訪問や電話等で必要な支援ができるよう丁寧な関わりや、評価の仕組みを検討していく。
- 口腔機能フレイル予防対策モデル事業では、口腔機能低下がみられる通いの場やモデル事業実施の承諾が得られた団体３か所に歯科衛生士が約４か月介入し、口腔機能測定器の他、舌圧測定器、舌圧トレーニング用具ペコぱんだを用いて指導するなどの集団教育を実施する。